

令和4年度福岡県小児等在宅医療推進事業

「小児科を有する中核病院における、
小児在宅医療についての意識調査」
報告書

福岡県
国立大学法人 九州大学病院

令和4年12月

令和4年度 福岡県小児等在宅医療推進事業 小児科を有する中核病院における、小児在宅医療についての 意識調査

近年、高度な医療ケアを要する医療的ケア児が増加しており、その大半は、総合周産期母子医療センターや地域周産期母子センターを有する地域中核病院に入院し、集中治療を含めた高度な医療を受けている。退院後も医療からの離脱が困難であるために、病院は在宅療養体制を整備し、在宅医療に移行している。在宅医療に移行した後の医療的ケア児の多くは、外来診療のためにこれらの病院に通院し、状態変化があればその病院で入院診療を受けている。したがって、集中治療や高度医療を担う特定機能病院や地域中核病院小児科に医療的ケア児の外来・入院診療が集中している構造があり、本来担うべき集中治療・高度医療がひっ迫する状況となっている。この解決の為には、他の小児科がある地域中核病院に、在宅医療支援を行う病院としての役割を担ってもらう必要がある。

そこで本年度、上記の体制づくりに関し医療関係者の意識や現状把握を行う為、福岡県内の医療的ケア児の在宅医療支援が可能と思われる地域中核病院に小児在宅医療についての意識調査を実施した。

【対象】

福岡県内の、医療的ケア児の診療が可能と思われる地域中核病院、及び医療的ケア児に対応している地域中核病院の下記の職種(32 病院、福岡県小児等在宅医療推進事業拠点病院である九州大学病院、福岡大学病院、福岡市立こども病院、聖マリア病院、飯塚病院は除く)

- ・小児科(又は医療的ケア児を診ている診療科)の医師、看護師
- ・医療連携室の看護師、医療ソーシャルワーカー

【方法】

対象病院に調査依頼状を送付し、オンラインでの回答

【アンケート内容】

「小児科を有する中核病院における、小児在宅医療についての意識調査」

＜医師へのアンケート＞ 項目1 回答者・回答病院の属性について

項目2 医療的ケア児の診療について

項目3 医療的ケア児の診療体制について

項目4 所属病院において小児在宅医療で担えると思う役割

＜看護師へのアンケート＞ 項目1 回答者の属性について

項目2 医療的ケア児の指導経験について

項目3 医療的ケア児の看護について

項目4 医療的ケア児の診療体制について

＜医療ソーシャルワーカーへのアンケート＞

項目1 回答者・回答病院の属性について

項目2 医療的ケア児の医療ソーシャルワーカーとしての介入について

項目3 医療的ケア児の診療体制について

【結果概要】

- ・回収率:84.4%(32 病院中 27 病院)

< 医師回答結果 >

- ・回答医師数:88 名

属性

- ・医師経験年数は 48 名 (55%) が 15 年以上、小児科経験年数は 40 名 (45%) が 15 年以上であった。

医療的ケア児の診療

- ・回答者の 86 名 (98%) が医療的ケア児の診療経験があった。
- ・医師の配属は、NICU/GCU:16 名、小児科(小児外科):69 名、NICU と小児科の統括:1 名、その他の診療科:2 名であった。
- ・医師の所属病院に関し、小児科医及び小児外科医の人数は、5 名以上:11 病院、3~4 名:6 病院、0~2 名:6 病院であった。
- ・医療的ケア児の診療経験がある医師への問いでは、経管栄養(経鼻、胃瘻、腸瘻)、吸引(口鼻腔内、気管内)、気管切開管理、人工呼吸器管理、在宅酸素の各医療的ケアについて、約 8 割以上の医師に経験があった。
- ・医療的ケア児の診療経験がある医師の 80%(86 名中 69 名)が医療的ケア児の診療に不安がある。
- ・医療的ケア児の診療で強く不安を感じているのは「在宅医療の分野の診療報酬」(69 名中 19 名)と「急変時の対応」(69 名中 18 名)であった。
- ・医療的ケア児の診療で不安を感じているのは(“とても不安”及び“どちらかといえば不安”)、「急変時の対応」(69 名中 48 名)、次いで「在宅医療の分野の診療報酬」(69 名中 47 名)、「在宅で使用する医療材料や医療機器の導入」(69 名中 46 名)であった。

医療的ケア児の診療体制

- ・「医療的ケア児の診療に地域中核病院が携わる意義」について、“理解ができる”又は“どちらかといえば理解ができる”と回答した医師は 90%(88 名中 80 名)であった。
- ・「所属病院において医療的ケア児の診療体制を整えるための要件」としては、「看護師や MSW 等多職種との連携強化」が最も多かった。(88 名中、必要:65 名、どちらかといえば必要:19 名)次いで「病院全体の受入れ体制」が多かった。(88 名中、必要:62 名、どちらかといえば必要:21 名)

所属病院において小児在宅医療で担えると思う役割

- ・「所属病院において小児在宅医療で担えると思う役割」については、下記の全ての役割で 6 割以上の医師から担える(又はどちらかといえば担える)との回答があった。
(役割:「自宅退院前の医療的ケアの指導・在宅での支援体制構築に向けた調整」、
「医療的ケア児の重篤な状態では無い場合での入院受入れ」、
「レスパイト目的」、「在宅療養指導管理料の算定、医療材料の支給」、
「医療的ケア児のかかりつけ医としての役割」)

<看護師回答結果>

- ・回答看護師数:25名

属性

- ・回答者の配属部署は、病棟8名、外来診療10名、連携室・在宅支援室7名であった。
- ・回答看護師の看護師経験年数は19名(76%)が15年以上、小児看護経験年数は2~5年が10名(40%)と最も多かった。また、6名(24%)がNICU/GCU勤務歴があった。

医療的ケア児の指導経験

- ・回答者の内、13名(52%)が医療的ケア児の指導経験があった。
- ・指導を行った医療的ケア児の医療的ケアでは、口鼻腔内吸引が最も多く(25名中12名)、次いで、経管栄養(胃瘻、腸瘻)(25名中10名)であった。

医療的ケア児の看護

- ・回答者の内、80%(25名中20名)が医療的ケア児の看護経験があった。
- ・医療的ケア児の看護経験がある看護師の75%(20名中15名)が医療的ケア児の看護に不安があった。
- ・医療的ケア児の看護に不安がある看護師が、強く不安を感じているのは「急変時の対応」であった。(15名中9名)
- ・医療的ケア児の看護に不安がある看護師が、不安を感じているのは(“とても不安”及び“どちらかといえば不安”)、「医療的ケア児の指導」が最も多く(15名中15名)、次いで「急変時の対応」(15名中14名)であった。

医療的ケア児の診療体制

- ・「医療的ケア児の診療に地域中核病院が携わる意義」について、“理解ができる”又は“どちらかといえば理解ができる”と回答した看護師は96%(25名中24名)であった。
- ・「所属病院において医療的ケア児の診療体制を整えるための要件」としては、全ての要件で、“必要”又は“どちらかといえば必要”との回答が回答者全員(25名、100%)からあった。特に「病院全体の受入れ体制(人員配置や物品等)」に関しては”必要“との回答が多かった。(25名中22名)
次いで、看護師やMSW等多職種との連携強化が多かった。(25名中21名)
(要件:「病院全体の受入れ体制」、「医師やMSW等多職種との連携強化」、
「状態悪化時等の連携病院、受入れ可能な病院」、
「医療的ケア児の病態や急変時の対応等医療面での勉強会の開催」、
「小児在宅医療における診療報酬や社会保障制度の勉強会の開催」、
「医療的ケアの指導に関する勉強会の開催」、
「在宅で使用する医療機器の勉強会の開催」、
「医療的ケア児の退院調整の流れの一連の把握が出来る勉強会の開催」、
「医療的ケア児の生活の実態について知る事が出来る勉強会の開催」)

<医療ソーシャルワーカー回答結果>

- ・回答 MSW 数:15 名

属性

- ・MSW 経験年数は 6 名 (40%) が 10～15 年と最も多く、次いで 15 年以上が 5 名であった。
- ・所属病院の MSW の人数は、5 名以上:10 病院、3～4 名:2 病院、1～2 名:2 病院であった。

医療的ケア児の医療ソーシャルワーカーとしての介入

- ・回答者 15 名中 11 名が医療的ケア児の退院調整経験があった。
- ・退院調整を行った医療的ケア児の医療的ケアでは、経管栄養(経鼻)が最も多く(11 名中 10 名)、次いで気管切開管理・在宅酸素(11 名中 9 名)、口鼻腔内吸引・気管内吸引・人工呼吸器管理(11 名中 8 名)であった。
- ・医療的ケア児の退院調整経験がある MSW の 73%(11 名中 8 名)が医療的ケア児の退院調整に不安があった。
- ・医療的ケア児の退院調整に不安がある MSW が、不安を感じているのは(“とても不安“及び”どちらかといえば不安“)、「在宅医療の分野の診療報酬について」と「社会資源について」が最も多く(8 名中 6 名)、次いで「在宅で使用する医療材料や医療機器の導入」(8 名中 5 名)であった。

医療的ケア児の診療体制

- ・「医療的ケア児の診療に地域中核病院が携わる意義」について、“理解ができる”又は”どちらかといえば理解ができる“と回答した MSW は 93%(15 名中 14 名)であった。
- ・「所属病院において医療的ケア児の診療体制を整えるための要件」としては、「状態悪化時等の連携病院、受入れ可能な病院」、「医師や看護師等多職種との連携強化」、「医療的ケア児の病態や急変時の対応等医療面での勉強会の開催」、「小児在宅医療における診療報酬や社会保障制度の勉強会の開催」に関し、“必要”又は“どちらかといえば必要”との回答が回答者全員(15 名、100%)からあった。特に「状態悪化時等の連携病院、受入れ可能な病院」に関しては”必要“との回答が多かった。(15 名中 14 名)

【考察】

1. 医師の意識・現状に関する考察

本事業は NICU 長期入院対策として始まった経緯があり、医療的ケア児の診療は新生児医療を担当する小児科医が継続するのが通念であった。しかしながら、医療的ケア児の基礎疾患は血液・免疫疾患、腫瘍、重症感染症、心疾患、神経疾患、腎疾患、内分泌代謝疾患、外傷との多岐にわたり、小児科医のサブスペシャリティと関連なく診療に関わるようになってきた。そのため、中核病院小児科に勤務する小児科医師の多くが医療的ケア児の診療に不安を抱いている。ひとりの、もしくは少数の医師で、医療的ケア児の急変対応のために院内待機することは現実的ではない。医師の集約化、ならびに医療スタッフの育成が課題となる。また、医療的ケア児の診療報酬は、重症児入院加算等のインセンティブが設けられており、少子化社会・疾患構造の変化に伴う新たな小児科運営の軸となることが期待される。

2. 看護師の意識・現状に関する考察

アンケートの回答は全員、看護師経験 5 年以上を有する看護師で、うち 88%が 2 年以上の小児看護経験があった。その中で、これまで医療的ケア児の看護に携わったことのある看護師は 80%、医療的ケアを指導した経験は 52%であった。医療的ケア児の看護で不安な点の上位は急変時の対応、医療的ケアの指導、診療報酬についてであった。

医療的ケア児の診療体制において、中核病院が携わる意義については 96%の看護師が一定の理解を示している事から、今後体制を整える事で、看護の面でも医療的ケア児の診療体制の裾野が広がる可能性が示唆された。各病院のハード面や病院としての受け入れ方針等問題も挙がっている。他の問題で今後県全体で解決に向けて取り組める事として、状態悪化時等の連携病院の確保、小児在宅医療の分野の勉強会開催による知識向上、連携強化があるため、可能な事から取り組んでいく必要があると考える。

3. 医療ソーシャルワーカーの意識・現状に関する考察

MSW の配置数は、5 名以上の病院が多く(10 病院)、MSW 経験年数は 10 年以上が 7 割以上、医療的ケア児の退院支援経験は 7 割以上あることがわかった。医療的ケア児の診療体制を整えるための要件としては、状態悪化時の連携病院や受け入れ先の確保等が必要という意見が多かった。

今回の調査から MSW は社会保障制度を活用した地域連携を重視しており、そのための情報収集や勉強会開催を希望している意見が見られた。しかし、病院全体が医療的ケア児を受け入れる体制が整っていない現状があるため、MSW はジレンマを感じていることが結果からうかがえた。特に緊急時の対応が可能な医療機関や地域の支援診療所では対応可能な機関が少なく、資源不足を感じている。

【結語】

地域包括ケアシステム構想によって、限られた医療資源の効率的な運営が可能となり、また県内すべての地域に居住している医療的ケア児とその養育者への医療サービスの均てん化を目指すことができる。小児在宅医療は、NICU を有する拠点病院単独、もしくは在宅療養支援診療所とのペアのみでは維持が困難であり、今後増えてゆく医療的ケア児とその重症化、養育者のレスパイト、災害対策等の観点からも地域中核病院の診療参加が不可欠である。福岡県小児等在宅医療推進事業は本調査によって、地域中核病院の拡充に向けた課題と展望を洗い出すことができた。今後の事業計画に反映させることで、地域包括ケアシステムの確立に寄与していきたい。

【謝辞】

本調査に関し、アンケート調査にご協力頂いた病院の医師、看護師、医療ソーシャルワーカーの方々に感謝を申し上げます。

小児科を有する中核病院における、小児在宅医療についての
意識調査結果

令和4年度福岡県小児等在宅医療推進事業

小児科を有する中核病院における、小児在宅医療についての意識調査アンケート結果

アンケート基本情報

調査期間：2022年8月1日～2022年10月10日

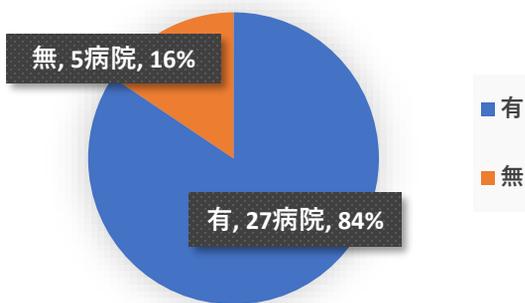
病院回答率：32病院中 27病院 回答率：84.4%

医師回答数：88件、

看護師回答数：25件、

医療ソーシャルワーカー回答数：15件

1. 病院回答率



2. 地区別病院回答数

地区	病院数	アンケート回収数
福岡地区	13	12
筑後地区	5	2
筑豊地区	3	3
北九州地区	11	10

3. 職種別回答人数

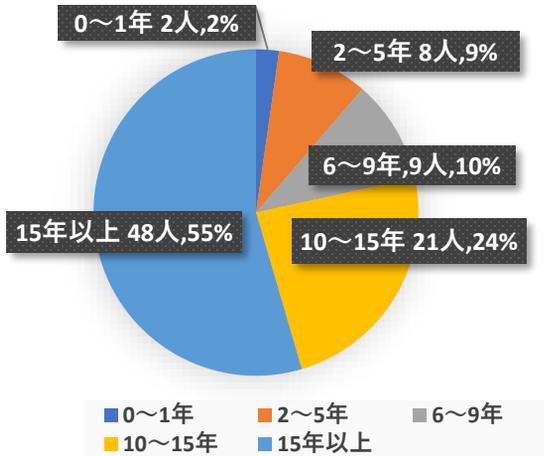
職種	回答人数
医師	88
看護師	25
医療ソーシャルワーカー	15



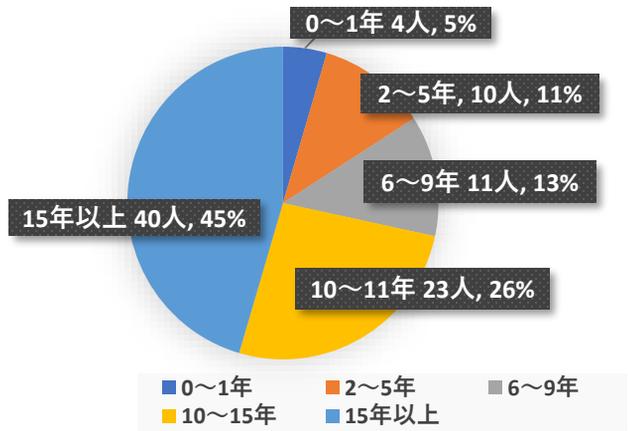
I 医師へのアンケート結果

1. 属性について

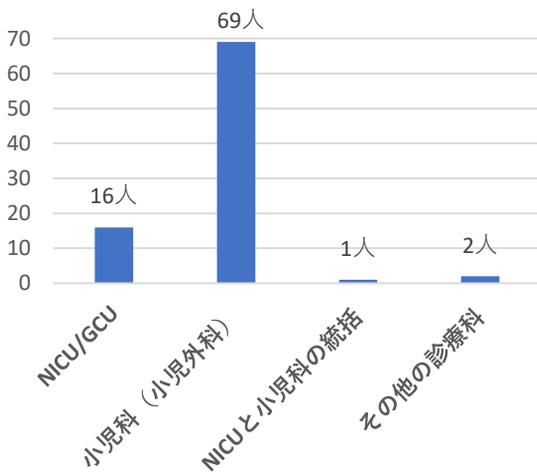
1. 1 医師経験年数



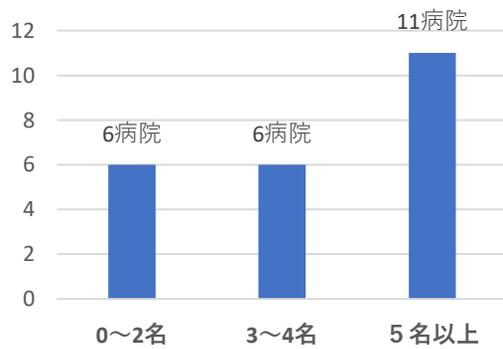
1. 2 小児科経験年数



1. 3 配属

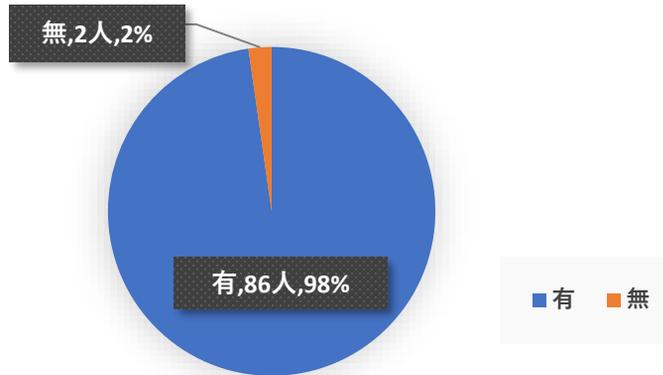


1. 4 院内の小児科医、小児外科医の人数



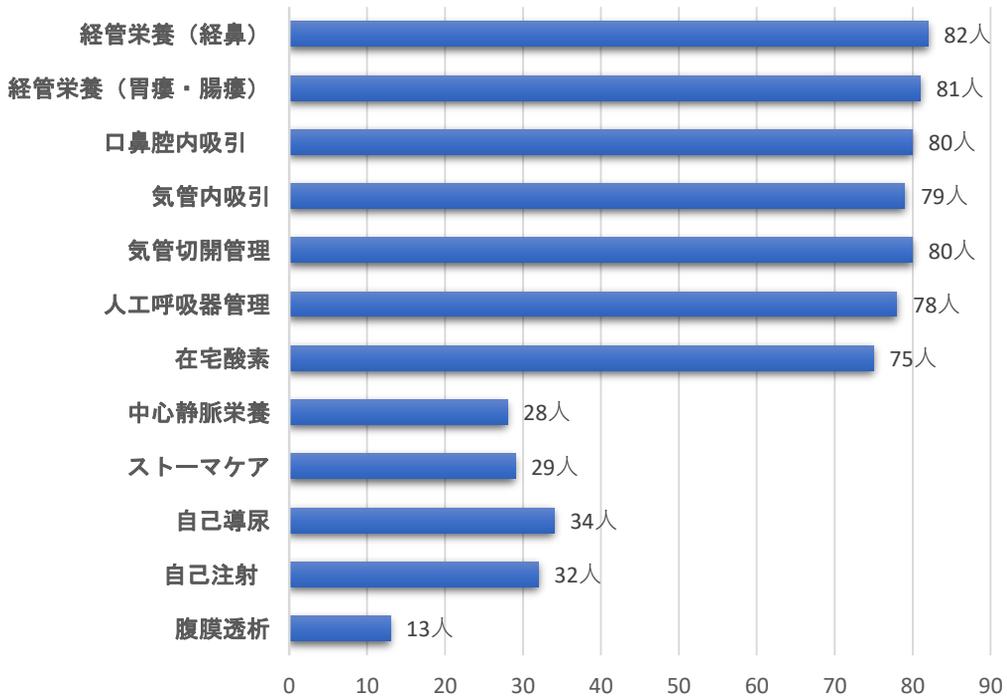
2. 医療的ケア児の診療について

2. 1 医療的ケア児の診療経験



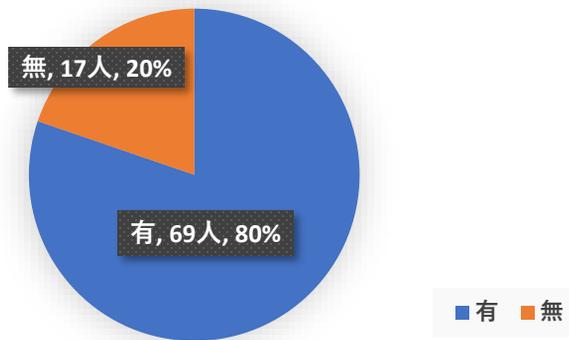
2. 1. 1 診療を行った医療的ケア

対象：医療的ケア児の診療経験のある人のみ



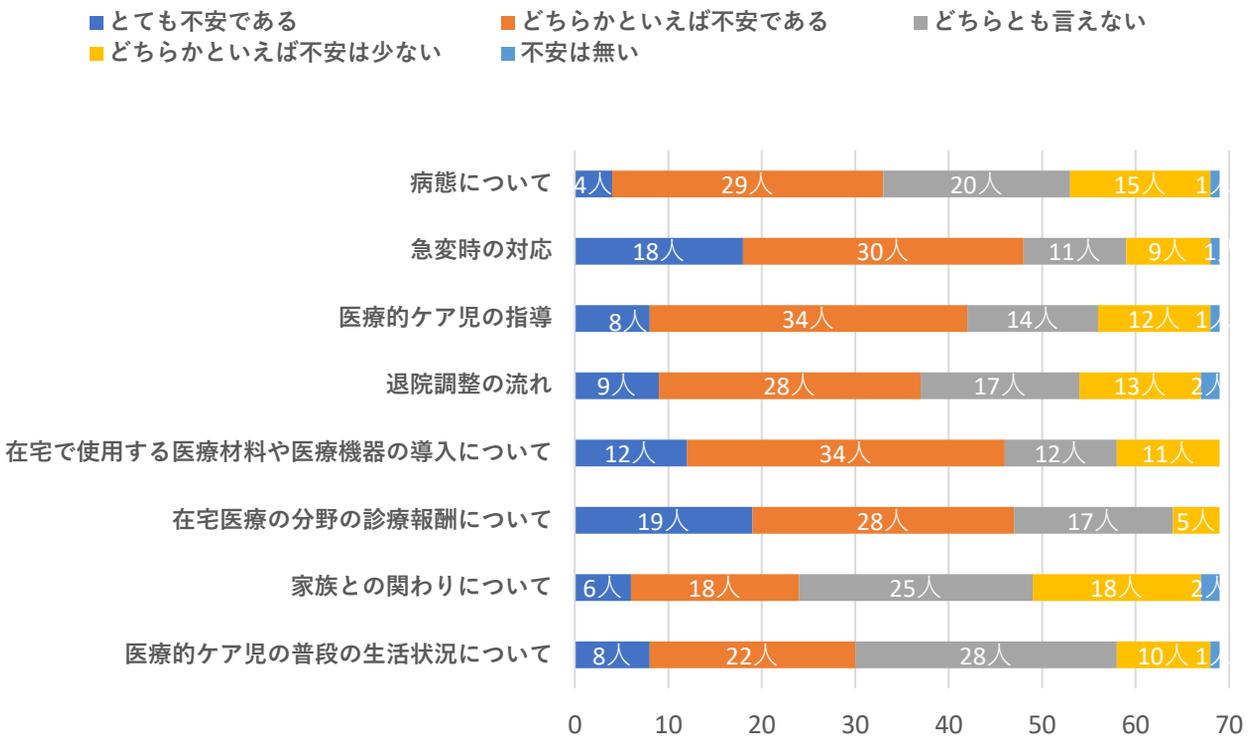
2. 1. 2 医療的ケア児の診療への不安

対象：医療的ケア児の診療経験のある人のみ



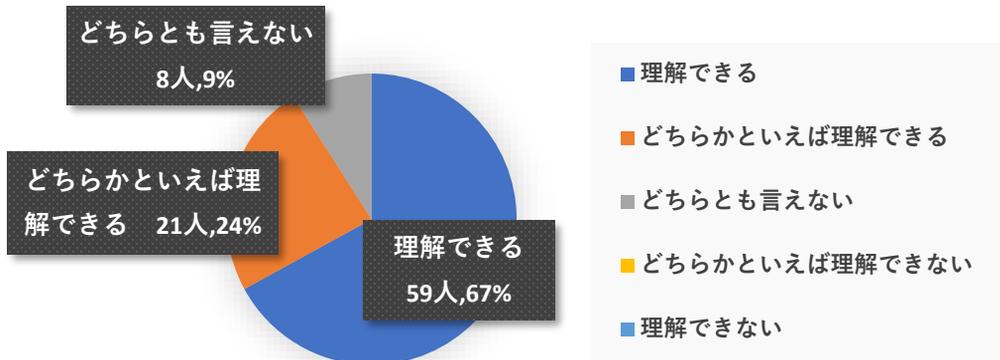
2. 1. 2. 1 医療的ケア児の診療に関する不安の内容と不安度

対象：医療的ケア児の診療経験のある人で
診療への不安のある人のみ



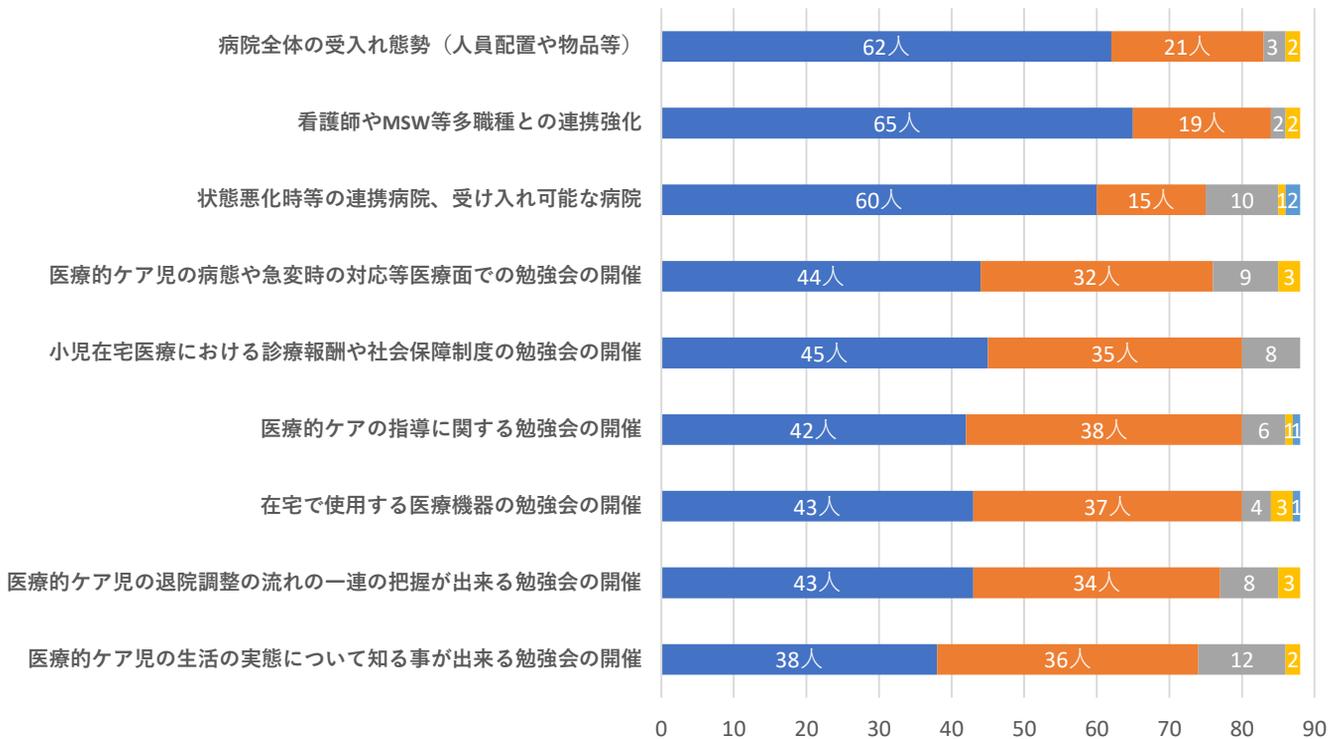
3. 医療的ケア児の診療体制について

3. 1 医療的ケア児の診療に地域中核病院が携わる意義について



3. 2 所属病院において、医療的ケア児の診療体制を整えるための要件

■ 必要 ■ どちらかといえば必要 ■ どちらとも言えない ■ どちらかといえば必要ない ■ 必要ない

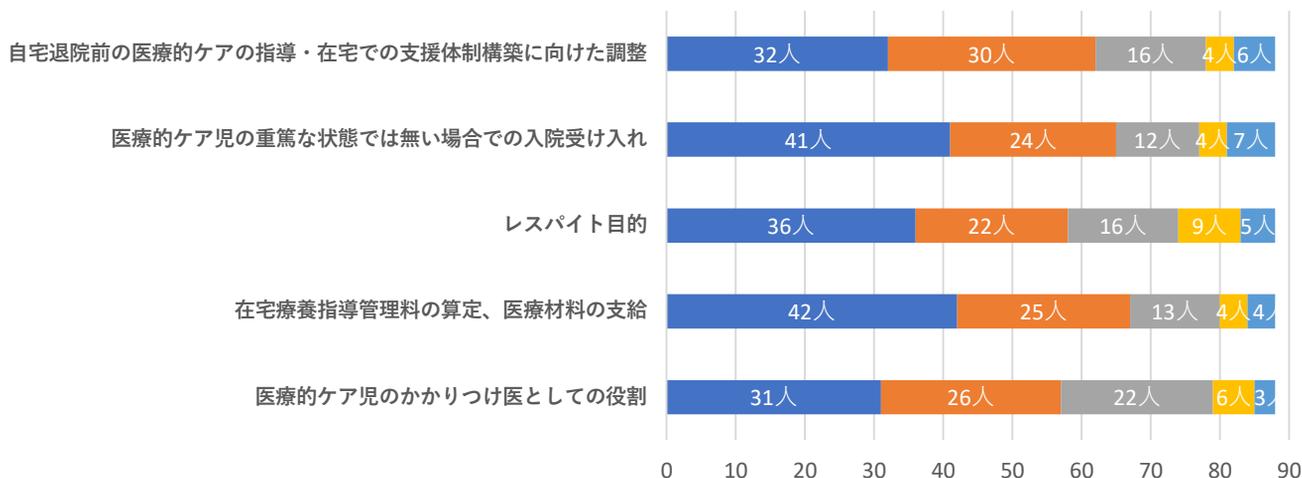


所属病院において、医療的ケア児の診療体制を整えるためのその他の要件

その他の要件
当院での実施について検討が必要
医局や病院の方針の決定
中核病院の人的余裕、医療経済的メリットがないと進みにくい
一般の小児科の入院などができる体制を整えること。（当院にはそれすらなく、2年前までは自分でBCGの薬液調整などをしない、看護師が外来にアテンドしないのが標準でした。）
小児科病床、小児科医、小児看護スタッフの確保
感染対策に配慮した個室等の設備
医局の垣根を超えた協力体制。基幹病院での丁寧な定期フォロー
将来を含めて診療科の移行体制
保険診療からもれる状況について（検査、治療、管理など、あるいは疾患特異的な問題；筋疾患など）
在宅医を含めた地域の小児在宅医療の話し合い、地域ごとのケア体制
療育、レスパイト先
レスパイト入院に対する診療報酬新設
レスパイト入院に対する保険病名の設定
レスパイト入院の制度についての理解
これまで大病院に入院できていた両親への説明会
現時点では必要無し

3. 3 所属病院において小児在宅医療で担えると思う役割

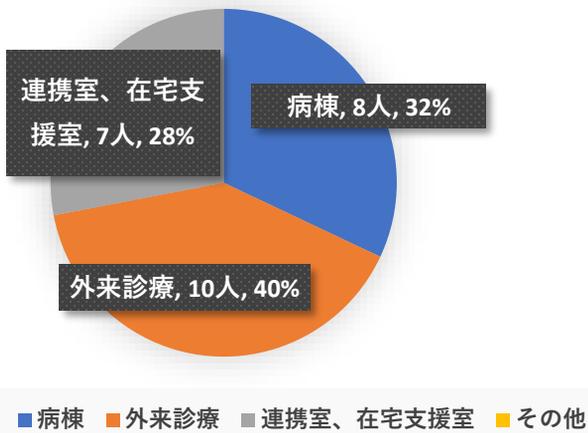
■担える ■どちらかといえば担える ■どちらとも言えない ■どちらかといえば担えない ■担えない



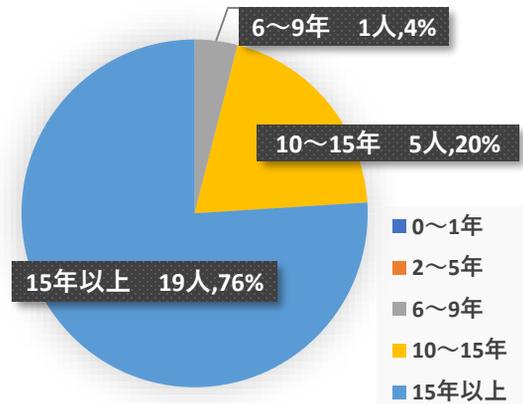
II 看護師へのアンケート結果

1. 属性について

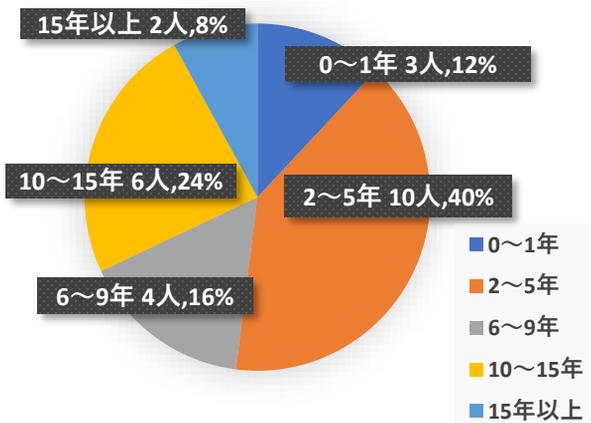
1. 1 配属部署



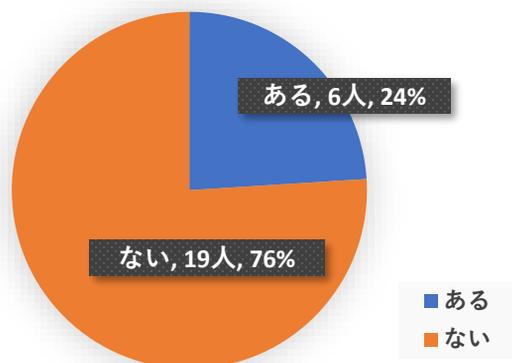
1. 2 看護師経験年数



1. 3 小児看護経験年数

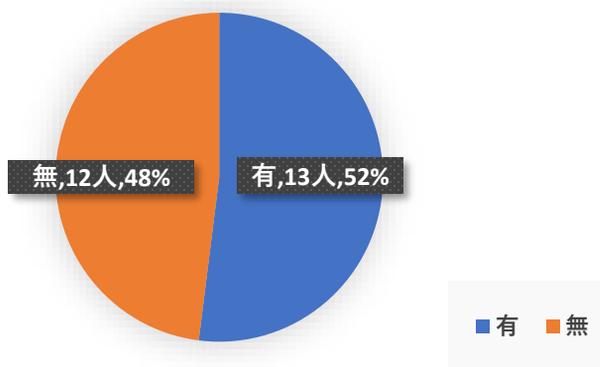


1. 4 NICU/GCU勤務歴



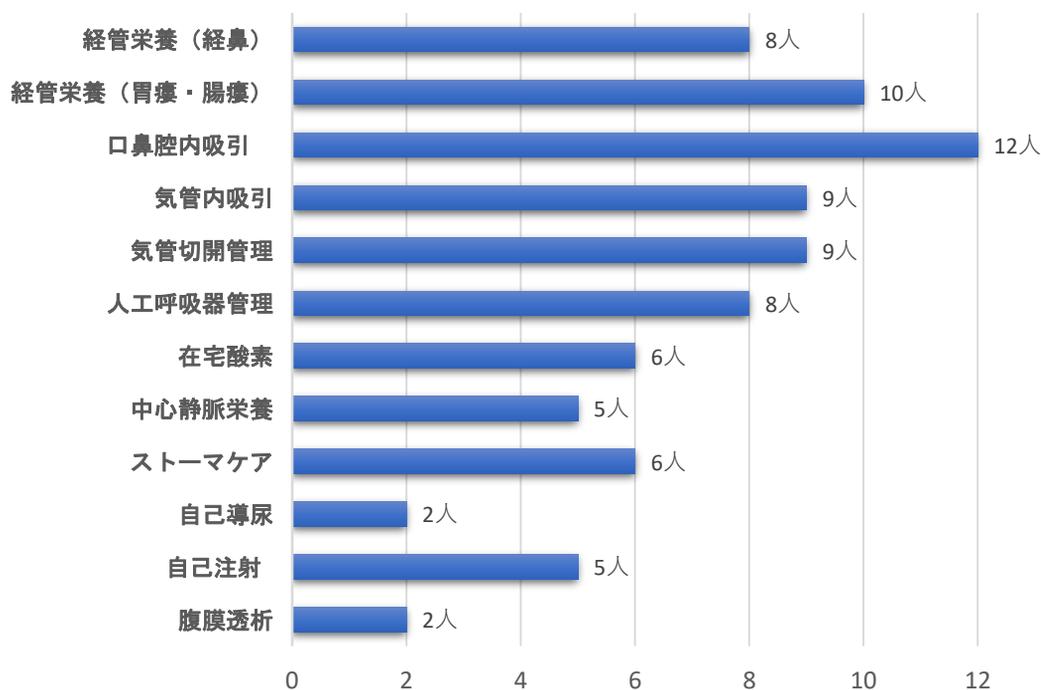
2. 医療的ケア児の指導経験について

2. 1 医療的ケア児の指導経験



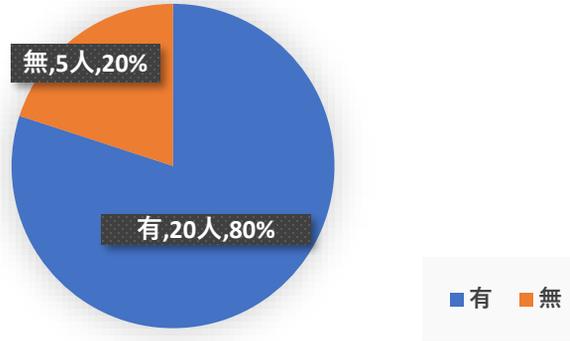
2. 1. 1 指導を行った医療的ケア児の医療的ケア

対象：医療的ケア児の指導経験のある人のみ



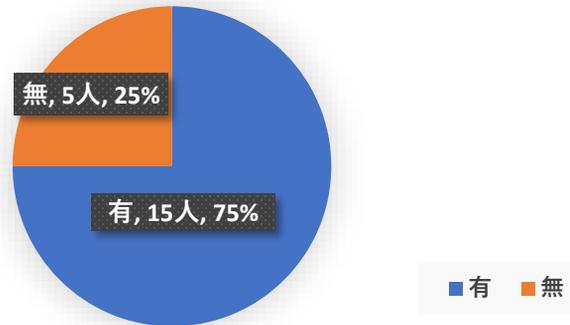
3. 医療的ケア児の看護について

3. 1 医療的ケア児の看護経験



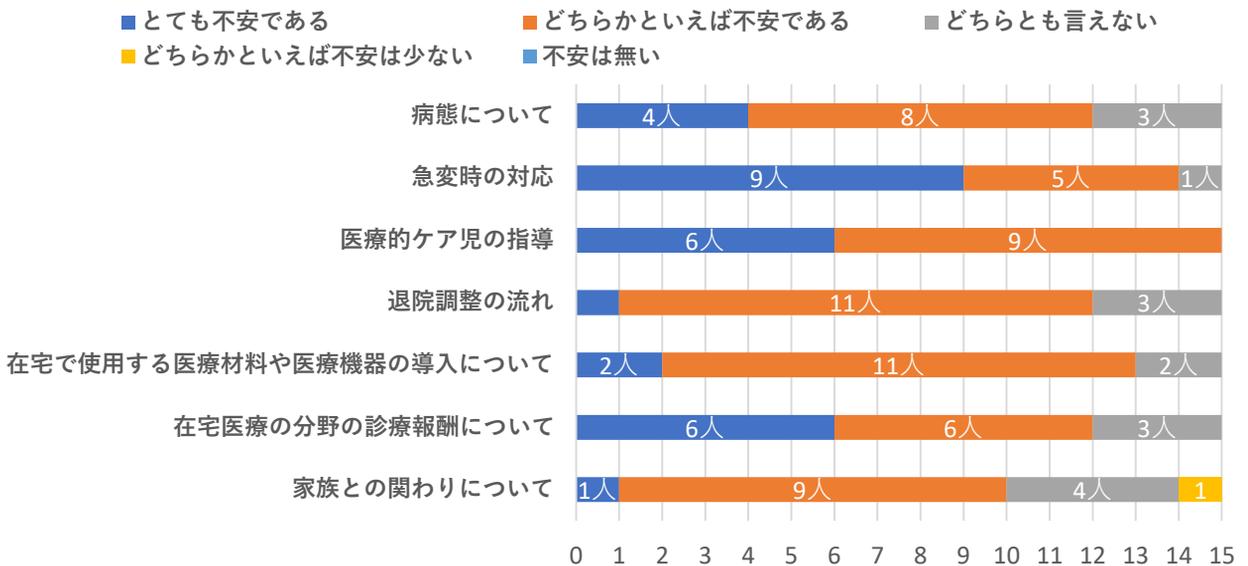
3. 1. 1 医療的ケア児の看護への不安

対象：医療的ケア児の看護経験のある人のみ



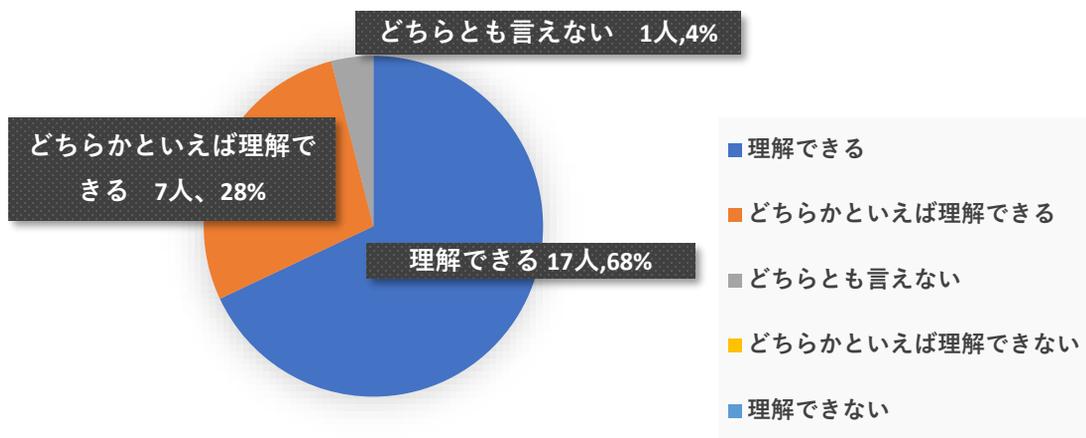
3. 1. 1. 1 医療的ケア児の看護に関する不安の内容と不安度

対象：医療的ケア児の看護経験のある人で看護への不安のある人のみ

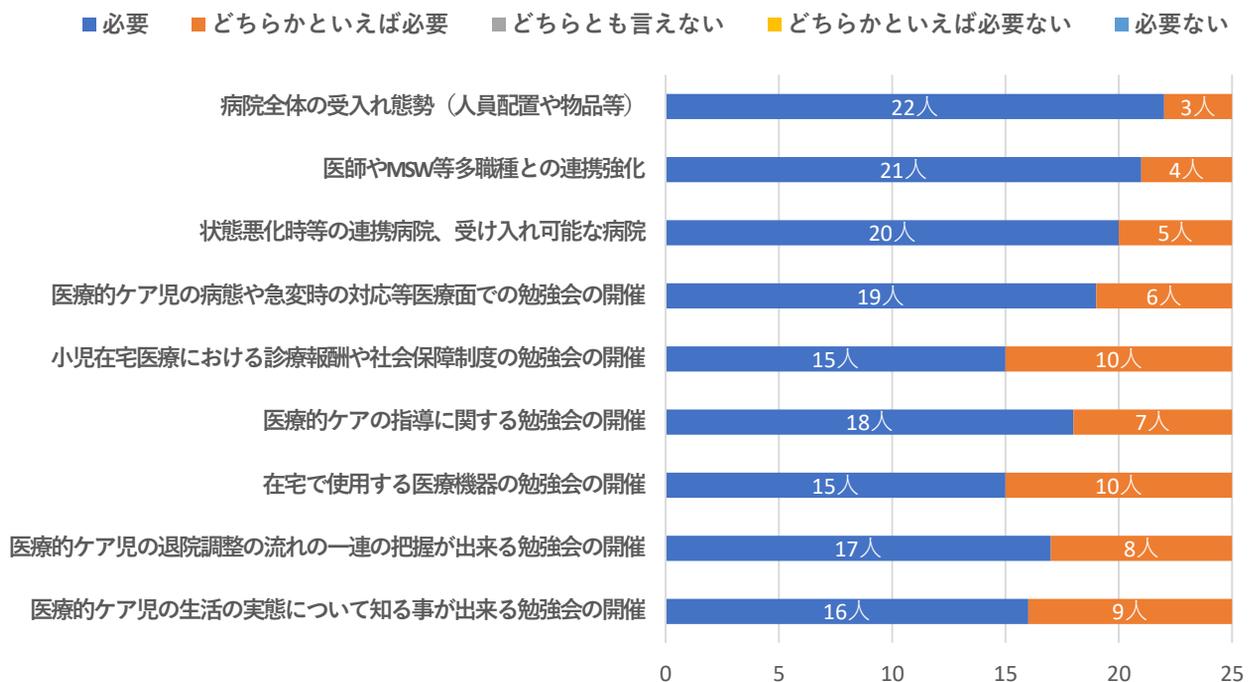


4. 医療的ケア児の診療体制について

4. 1 医療的ケア児の診療に地域中核病院が携わる意義について



4. 2 所属病院において医療的ケア児の診療体制を整えるための要件



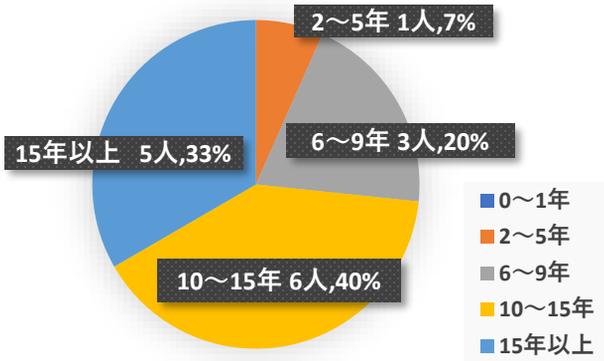
所属病院において医療的ケア児の診療体制を整えるためのその他の要件

その他の要件
診療体制の組織化とルール作り
病床数の確保、スタッフの増員
受け入れが困難な理由には感染対策が関係することがある。個室を準備できるように施設整備の支援が必要。
地域の小児科診療所との連携体制
小児科専門の訪問診療

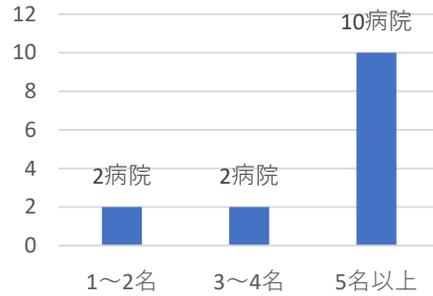
Ⅲ 医療ソーシャルワーカー（MSW）へのアンケート結果

1. 属性について

1. 1 MSW経験年数

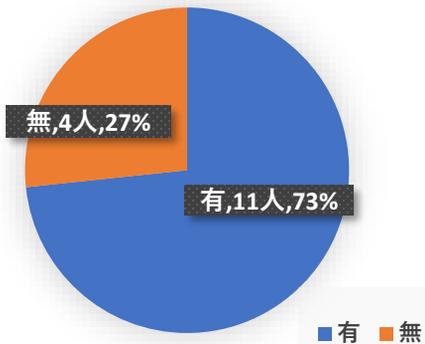


1. 2 院内のMSWの人数



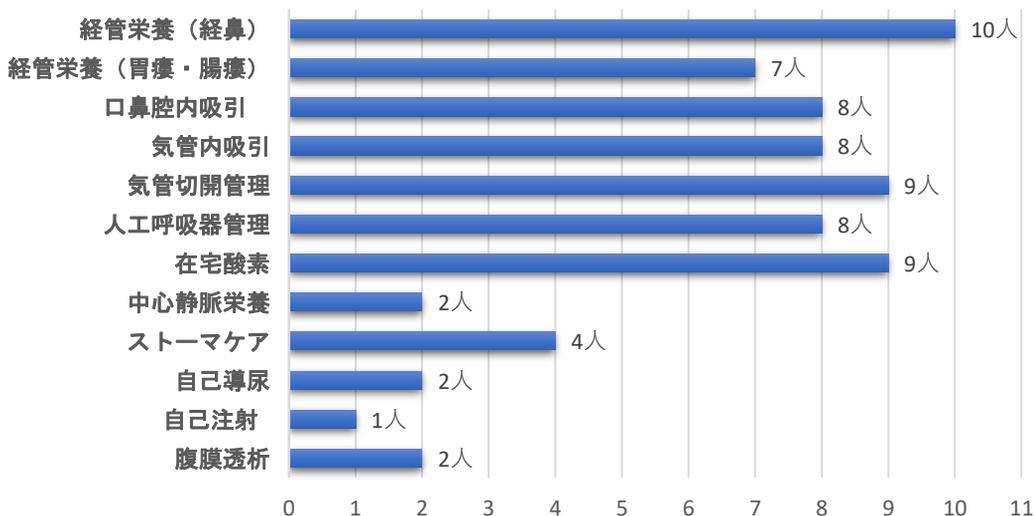
2. 医療的ケア児の医療ソーシャルワーカーとしての介入について

2. 1 医療的ケア児の退院調整経験



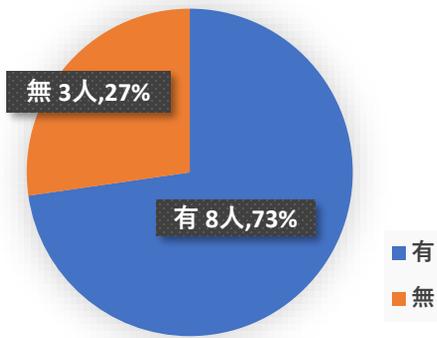
2. 1. 1 退院調整を行った医療的ケア児の医療的ケア

対象：医療的ケア児の退院調整経験のある人のみ



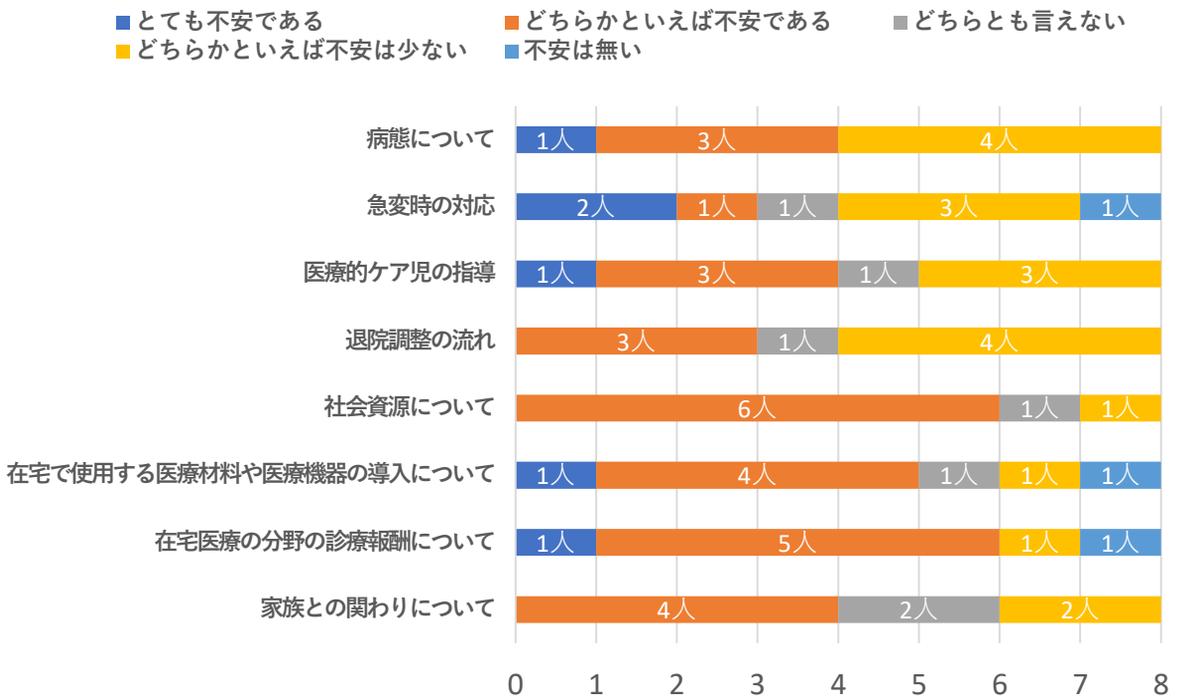
2. 1. 2 医療的ケア児の退院調整への不安

対象：医療的ケア児の退院調整経験のある人のみ



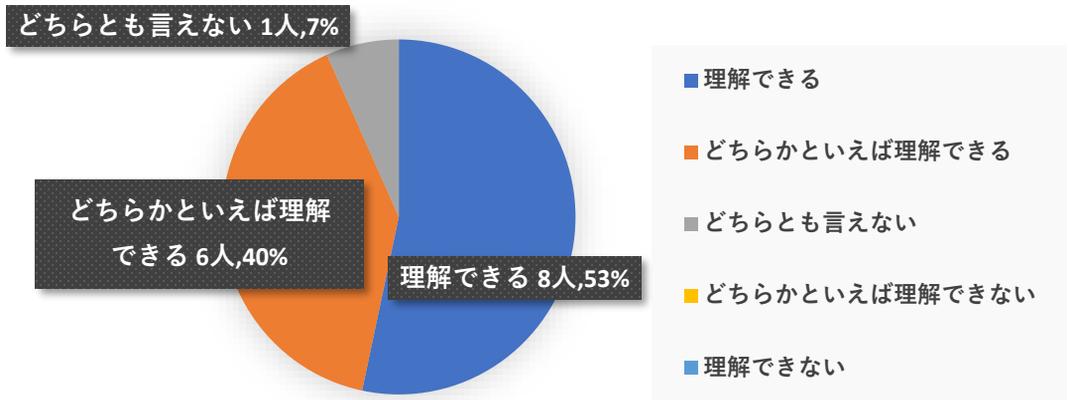
2. 1. 2. 1 医療的ケア児の退院調整に関する不安の内容と不安度

対象：医療的ケア児の退院調整経験のある人で退院調整への不安のある人のみ

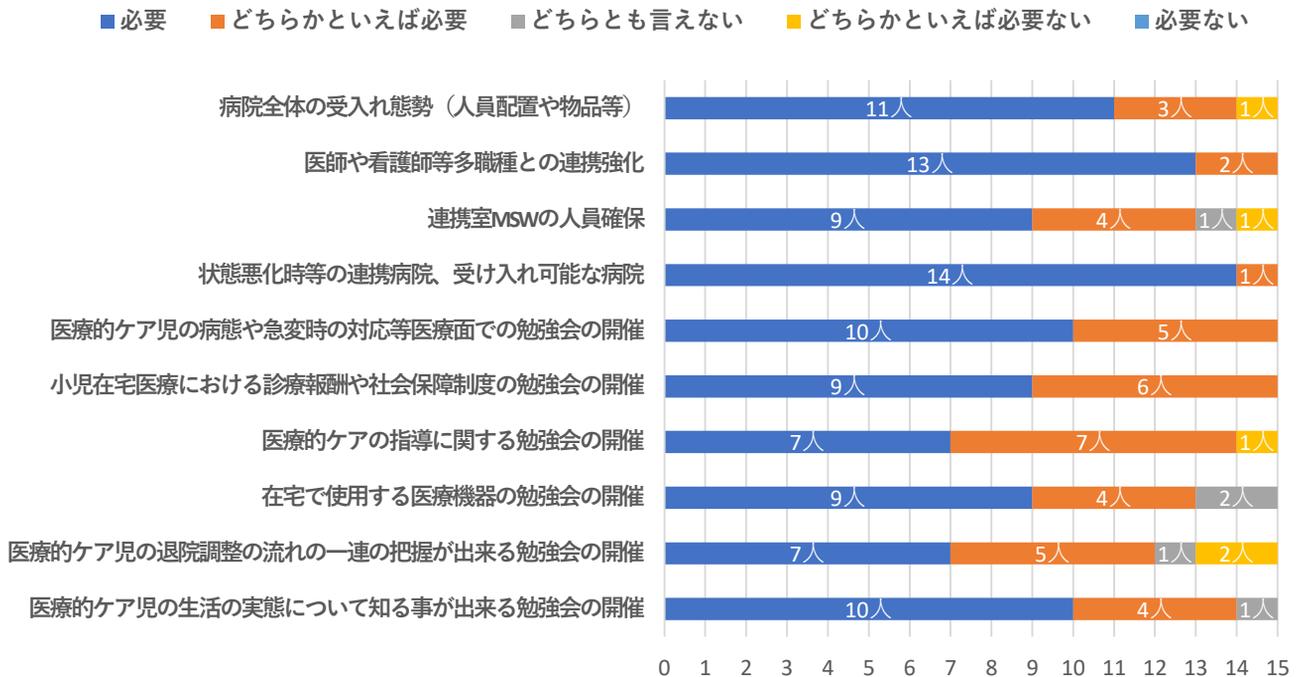


3. 医療的ケア児の診療体制について

3. 1 医療的ケア児の診療に地域中核病院が携わる意義について



3. 2 所属病院において医療的ケア児の診療体制を整えるための要件



所属病院において医療的ケア児の診療体制を整えるためのその他の要件

その他の要件
態勢を整える為の十分な費用（人件費・物品等）
人員配置に対する診療報酬
訪問診療の充実
月齢の低い小児や小児の訪問診療をおこなう医療機関が少ないので、福岡県内で小児の訪問診療をおこなっているクリニック等の情報

添付

アンケートフォーム（医師用、看護師用、MSW用）

小児科を有する中核病院における、小児在宅医療についての意識調査 (医師の方)

退院後に医療的ケアを必要とする児(以下医療的ケア児)の数は増加し、福岡県でも医療的ケア児の数は、この10年間で約2倍に増加をしています。

小児の在宅医療への関心・支援体制も全国的に整いつつあるものの、いまだ課題が多いのが現状です。福岡県内の課題の一つとして、総合周産期母子医療センターを有する病院に、医療的ケア児が集中している事が挙げられます。この課題を解消するためには、地域の中核病院の小児科病床を有する医療機関との連携が必要不可欠です。小児の地域包括ケアシステムを考える中で、地域の中核病院と役割分担をしながら共に医療的ケア児を支える事が出来る体制づくりを目指すために、現場の実態・意識調査を実施したいと思います。

ご協力よろしくお願いします。

I. 貴殿の職務歴および貴院(貴施設)についてお伺いします。

問1. 貴院(貴施設)名 _____

問2. 貴殿の医師経験年数

0~1年 2~5年 6~9年 10~15年 15年以上

問3. 貴殿の小児科経験年数

0~1年 2~5年 6~9年 10~15年 15年以上

問4. 貴殿の配属

NICU/GCU 小児科(小児外科) その他_____

問5. 貴院(貴施設)に小児科医、小児外科医は何人いますか。

0~2名 3~4名 5名以上

II. 医療的ケア児の診療についてお伺いいたします。

問1. これまでに医療的ケア児の診療に携わった事がありますか。

ある ない

問1-A. 問1で「ある」と回答した方に質問です。

診療に携わったことのある医療的ケアについてチェックしてください。

- | | | |
|-----------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 経管栄養(経鼻) | <input type="checkbox"/> 経管栄養(胃瘻・腸瘻) | <input type="checkbox"/> 鼻腔内吸引 |
| <input type="checkbox"/> 気管内吸引 | <input type="checkbox"/> 気管切開管理 | <input type="checkbox"/> 人工呼吸器管理 |
| <input type="checkbox"/> 在宅酸素 | <input type="checkbox"/> 中心静脈栄養 | <input type="checkbox"/> ストーマケア |
| <input type="checkbox"/> 自己導尿 | <input type="checkbox"/> 自己注射 | <input type="checkbox"/> 腹膜透析 |

問1-B. 問1で「ある」と回答した方に質問です。

医療的ケア児の診療に不安がありますか

ある ない

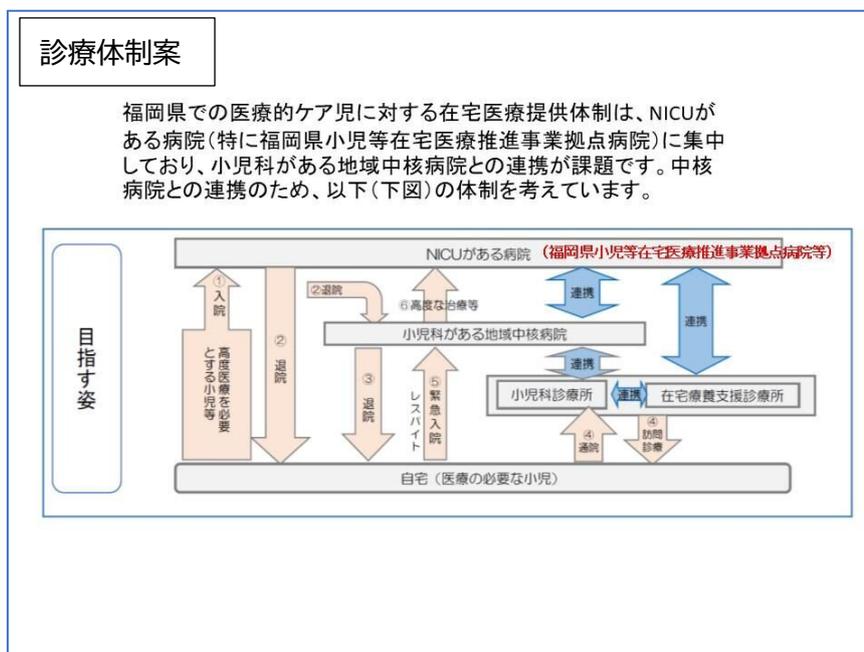
問 1-C. 問 1-B で「ある」と回答した方に質問です。

医療的ケア児の診療についての不安度をチェックしてください。

	とても不安である	どちらかといえば不安である	どちらともいえない	どちらかといえば不安は少ない	不安は無い
病態について	<input type="checkbox"/>				
急変時の対応	<input type="checkbox"/>				
医療的ケアの指導	<input type="checkbox"/>				
退院調整の流れ	<input type="checkbox"/>				
在宅で使用する医療材料や医療機器の導入について	<input type="checkbox"/>				
在宅医療の分野の診療報酬について	<input type="checkbox"/>				
家族との関わりについて	<input type="checkbox"/>				
医療的ケア児の普段の生活状況について	<input type="checkbox"/>				

問 2. 以下の診療体制案を参照し、質問に教えてください。

今後医療的ケア児の診療に中核病院が携わる事の意義について



- 理解できる
- どちらかといえば理解できる
- どちらとも言えない
- どちらかといえば理解できない
- 理解できない

問 3. 貴院において、医療的ケア児の診療体制を整えるための下記の項目の必要度をチェックしてください。

	必要	どちらか といえ 必要	どちら も言え ない	どちら かとい えば 必要 ない	必要 ない
病院全体の受入れ態勢(人員配置や物品等)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
看護師や MSW 等多職種との連携強化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
状態悪化時等の連携病院、受け入れ可能な病院	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
医療的ケア児の病態や急変時の対応等医療面での勉強会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
小児在宅医療における診療報酬や社会保障制度の勉強会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
医療的ケアの指導に関する勉強会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
在宅で使用する医療機器の勉強会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
医療的ケア児の退院調整の流れの一連の把握が出来る勉強会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
医療的ケア児の生活の実態について知る事が出来る勉強会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問 3-A. 問 3 の項目以外で診療体制を整えるために必要なものがあれば記述してください。

問 4. 今後、貴院が小児在宅医療で担えると思う役割について

	担え ると思 う	どちら かとい えば 担え ると思 う	どちら も言え ない	どちら かとい えば 担え ない と思 う	担え ない と思 う
自宅退院前の医療的ケアの指導・在宅での支援体制構築に向けた調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
医療的ケア児の重篤な状態では無い場合での入院受け入れ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
レスパイト目的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
在宅療養指導管理料の算定、医療材料の支給	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
医療的ケア児のかかりつけ医としての役割	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

小児科を有する中核病院における、小児在宅医療についての意識調査 (小児科病棟・小児科外来の看護師、連携室の看護師の方)

退院後に医療的ケアを必要とする児(以下医療的ケア児)の数は増加し、福岡県でも医療的ケア児の数は、この10年間で約2倍に増加をしています。

小児の在宅医療への関心・支援体制も全国的に整いつつあるものの、いまだ課題が多いのが現状です。福岡県内の課題の一つとして、総合周産期母子医療センターを有する病院に、医療的ケア児が集中している事が挙げられます。この課題を解消するためには、地域の中核病院の小児科病床を有する医療機関との連携が必要不可欠です。小児の地域包括ケアシステムを考える中で、地域の中核病院と役割分担をしながら共に医療的ケア児を支える事が出来る体制づくりを目指すために、現場の実態・意識調査を実施したいと思います。

ご協力よろしくお願いします。

I. あなたの職務歴および貴院(貴施設)についてお伺いします。

問1. 貴院(貴施設)名 _____

問2. あなたの配属部署

病棟 外来診療 連携室、在宅支援室 その他 _____

問3. あなたの看護師経験年数

0~1年 2~5年 6~9年 10~15年 15年以上

問4. あなたの小児看護経験年数

0~1年 2~5年 6~9年 10~15年 15年以上

問5. あなたのNICU/GCUでの勤務歴

ある ない

II. 医療的ケア児の指導経験について

問1. これまでに医療的ケア児の指導に携わった事がありますか。

ある ない

問1-A. 問1で「ある」と回答した方に質問です。

指導に携わったことのある医療的ケアについてチェックしてください。

- | | | |
|-----------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 経管栄養(経鼻) | <input type="checkbox"/> 経管栄養(胃瘻・腸瘻) | <input type="checkbox"/> 鼻腔内吸引 |
| <input type="checkbox"/> 気管内吸引 | <input type="checkbox"/> 気管切開管理 | <input type="checkbox"/> 人工呼吸器管理 |
| <input type="checkbox"/> 在宅酸素 | <input type="checkbox"/> 中心静脈栄養 | <input type="checkbox"/> ストーマケア |
| <input type="checkbox"/> 自己導尿 | <input type="checkbox"/> 自己注射 | <input type="checkbox"/> 腹膜透析 |

Ⅲ. 医療的ケア児の看護について

問 1. 医療的ケア児の看護に携わった事がありますか。

ある ない

問 1-A. 問 1 で「ある」と回答した方に質問です。

医療的ケア児の看護に不安がありますか

ある ない

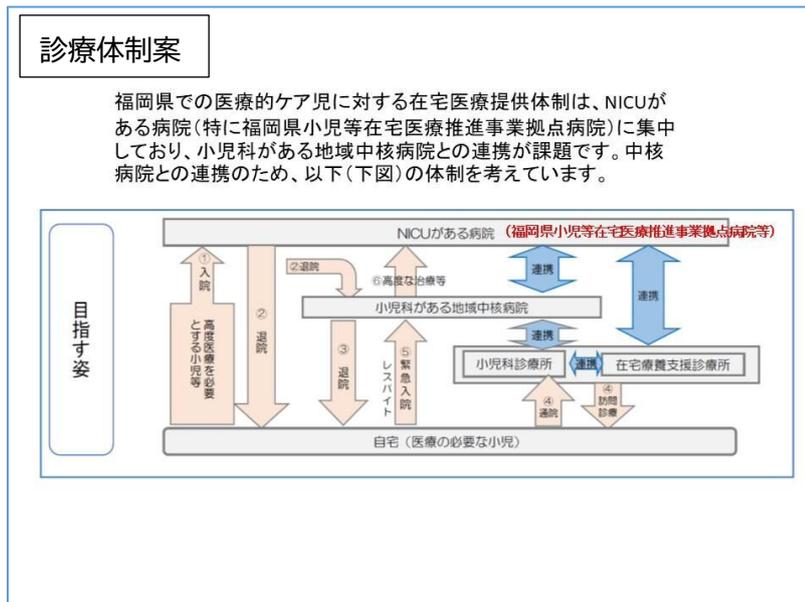
問 1-B. 問 1-A で「ある」と回答した方に質問です。

医療的ケア児の看護についての不安度をチェックしてください。

	とても不安である	どちらかといえば不安である	どちらともいえない	どちらかといえば不安は少ない	不安は無い
病態について	<input type="checkbox"/>				
急変時の対応	<input type="checkbox"/>				
医療的ケアの指導	<input type="checkbox"/>				
退院調整の流れ	<input type="checkbox"/>				
在宅で使用する医療材料や医療機器の導入について	<input type="checkbox"/>				
在宅医療の分野の診療報酬について	<input type="checkbox"/>				
家族との関わりについて	<input type="checkbox"/>				

問 2. 以下の診療体制案を参照し、質問に答えてください。

今後医療的ケア児の診療に中核病院が携わる事の意義について



- 理解できる
- どちらかといえば理解できる
- どちらとも言えない
- どちらかといえば理解できない
- 理解できない

問 3. 貴院において、医療的ケア児の診療体制を整えるための下記の項目の必要度をチェックしてください。

	必要	どちらか といえば 必要	どちらと も言えな い	どちらか といえば 必要ない	必要な い
病院全体の受入れ態勢(人員配置 や物品等)	<input type="checkbox"/>				
医師や MSW 等多職種との連携強 化	<input type="checkbox"/>				
状態悪化時等の連携病院、受け入 れ可能な病院	<input type="checkbox"/>				
医療的ケア児の病態や急変時の対 応等医療面での勉強会の開催	<input type="checkbox"/>				
小児在宅医療における診療報酬や 社会保障制度の勉強会の開催	<input type="checkbox"/>				
医療的ケアの指導に関する勉強会 の開催	<input type="checkbox"/>				
在宅で使用する医療機器の勉強会 の開催	<input type="checkbox"/>				
医療的ケア児の退院調整の流れの 一連の把握が出来る勉強会の開催	<input type="checkbox"/>				
医療的ケア児の生活の実態につい て知る事が出来る勉強会の開催	<input type="checkbox"/>				

問 3-A. 問 3 の項目以外で診療体制を整えるために必要なものがあれば記述してくださ
い。

小児科を有する中核病院における、小児在宅医療についての意識調査 (MSW(医療ソーシャルワーカー)の方)

退院後に医療的ケアを必要とする児(以下医療的ケア児)の数は増加し、福岡県でも医療的ケア児の数は、この10年間で約2倍に増加をしています。

小児の在宅医療への関心・支援体制も全国的に整いつつあるものの、いまだ課題が多いのが現状です。福岡県内の課題の一つとして、総合周産期母子医療センターを有する病院に、医療的ケア児が集中している事が挙げられます。この課題を解消するためには、地域の中核病院の小児科病床を有する医療機関との連携が必要不可欠です。小児の地域包括ケアシステムを考える中で、地域の中核病院と役割分担をしながら共に医療的ケア児を支える事が出来る体制づくりを目指すために、現場の実態・意識調査を実施したいと思います。

ご協力よろしくお願いします。

I. あなたの職務歴および貴院(貴施設)についてお伺いします。

問1. 貴院(貴施設)名 _____

問2. あなたのMSW経験年数

0~1年 2~5年 6~9年 10~15年 15年以上

問3. 貴院(貴施設)にMSWは何人いますか。

0~2名 3~4名 5名以上

II. 医療的ケア児のMSWとしての介入についてお伺いします。

問1. これまでに医療的ケア児の退院調整に携わった事がありますか。

ある ない

問1-A. 問1で「ある」と回答した方に質問です。

退院調整を行った医療的ケア児の医療的ケアについてチェックしてください。

- | | | |
|-----------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 経管栄養(経鼻) | <input type="checkbox"/> 経管栄養(胃瘻・腸瘻) | <input type="checkbox"/> 口鼻腔内吸引 |
| <input type="checkbox"/> 気管内吸引 | <input type="checkbox"/> 気管切開管理 | <input type="checkbox"/> 人工呼吸器管理 |
| <input type="checkbox"/> 在宅酸素 | <input type="checkbox"/> 中心静脈栄養 | <input type="checkbox"/> ストーマケア |
| <input type="checkbox"/> 自己導尿 | <input type="checkbox"/> 自己注射 | <input type="checkbox"/> 腹膜透析 |

問1-B. 問1で「ある」と回答した方に質問です。

医療的ケア児の退院調整に不安がありますか

ある ない

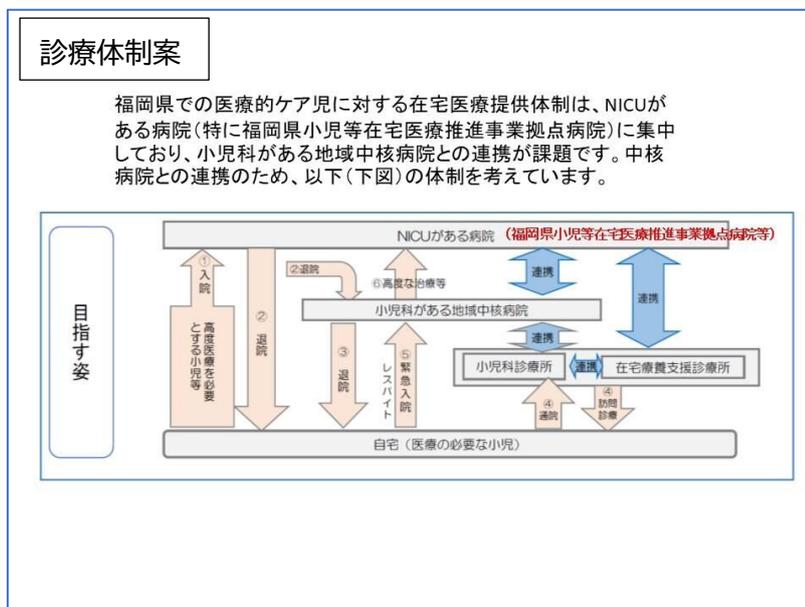
問 1-C. 問 1-B で「ある」と回答した方に質問です。

医療的ケア児の退院調整についての不安度をチェックしてください。

	とても不安である	どちらかといえば不安である	どちらともいえない	どちらかといえば不安は少ない	不安は無い
病態について	<input type="checkbox"/>				
急変時の対応	<input type="checkbox"/>				
医療的ケアの指導	<input type="checkbox"/>				
退院調整の流れ	<input type="checkbox"/>				
社会資源について	<input type="checkbox"/>				
在宅で使用する医療材料や医療機器の導入について	<input type="checkbox"/>				
在宅医療の分野の診療報酬について	<input type="checkbox"/>				
家族との関わりについて	<input type="checkbox"/>				

問 2. 以下の診療体制案を参照し、質問に答えてください。

今後医療的ケア児の診療に中核病院が携わる事の意義について



- 理解できる
- どちらかといえば理解できる
- どちらとも言えない
- どちらかといえば理解できない
- 理解できない

問 3. 貴院において、医療的ケア児の診療体制を整えるための下記の項目の必要度をチェックしてください。

	必要	どちらか といえ 必要	どちら とも 言え ない	どちら か とい え 必 要 な い	必要 な い
病院全体の受入れ態勢(人員配置や物品等)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
医師や看護師等多職種との連携強化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
連携室の MSW の人数確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
状態悪化時等の連携病院、受け入れ可能な病院	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
医療的ケア児の病態や急変時の対応等医療面での勉強会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
小児在宅医療における診療報酬や社会保障制度の勉強会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
医療的ケアの指導に関する勉強会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
在宅で使用する医療機器の勉強会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
医療的ケア児の退院調整の流れの一連の把握が出来る勉強会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
医療的ケア児の生活の実態について知る事が出来る勉強会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問 3-A. 問 3 の項目以外で診療体制を整えるために必要なものがあれば記述してください。
